

## タンクルーブリペア 「樹脂パッチ工法」 施工事例

### デッキ板の補修の難しさ

浮き屋根式タンクのデッキ板は、内容物（貯蔵危険物）の上にデッキ（屋根）を浮かべた構造になっているので風や浮力の影響を受けて歪みやすく、また歩行によりペコペコとたわみが生じます。

このような動きのある箇所からの漏洩に対して、硬質のパテなどで仮補修をしても、動きに追従できず、ポキンと割れてしまい、すぐに再漏洩してしまいます。かといって、タンクの内容物をすべて抜き取って、溶接作業をするとなると、莫大なコストがかかってしまいます。

### デッキ板からの漏洩に特化したリークシール、「樹脂パッチ工法」

イギリスのファーマナイト社は、1920年代から漏洩条件に合わせて、様々なシール材の研究開発に取り組んできました。

「樹脂パッチ工法」は、これまで開発されてきたシール材の中で、**硬化後も柔軟性をキープできる樹脂**を使用。この樹脂の特性により、デッキ板の動きに追従でき、長期間の漏れ止め効果が期待できます。

鉄セメントや硬化性パテでは  
追従できない  
動きのあるデッキ板からの  
漏れ止めに最適！

### 施工事例の紹介

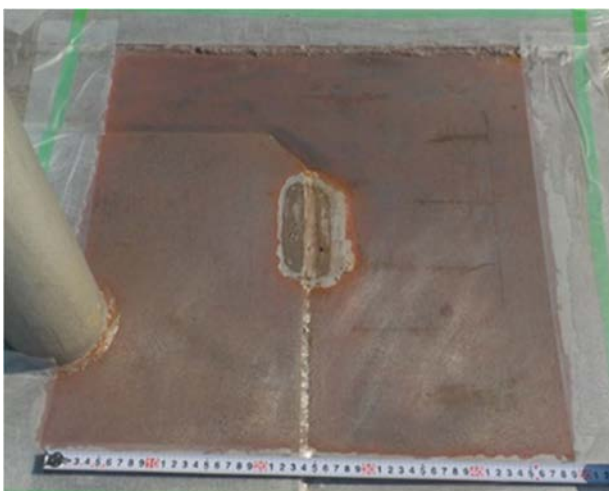
タンクのデッキ板が歪み、溶接線上に亀裂が発生。

仮補修を実施し漏れは止まった状態でしたが、再漏洩のリスクを考慮し、より長期間の漏れ止めが期待できる樹脂パッチ工法を採用していただきました。

補修範囲は、接着性を確保するためのオーバーラップも含み全体で 0.2 m<sup>2</sup>。工期は半日でした。

施工後、厳しい環境下で 4 年経過した 2021 年現在も不具合などの発生はなく、漏れ止め効果を維持しています。

施工前：



施工後：

